

平成 29 年度全国学力・学習状況調査が 4 月 18 日に実施され、大東市の全公立小学校の 6 年生 969 名、中学校の 3 年生 1,014 名が調査に参加しました。

調査内容は、国語及び算数・数学の知識に関する A 問題と、活用に関する B 問題による「学力調査」、児童・生徒に学校生活や家庭生活の様子をたずねた「児童・生徒質問紙」、各学校の取り組み状況や教職員の意識についてたずねた「学校質問紙」の 3 つからなっています。

教育委員会では、分析した調査結果を学校での「授業改善の工夫」および児童・生徒の「学習意欲と学力の向上・基本的生活習慣の定着」に役立てるとともに市の教育施策に反映させてまいります。

なお、本調査で測れるのは児童・生徒の学力の一側面です。

問教育研究所 ☎870・9107

小学校 学力調査の結果より

国語は、A 問題では、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことはできていました。また、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くこともできています。一方、B 問題では、目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書くことについて課題があります。

算数は、A 問題では、無解答率が大きく減少しました。また、「数と計算」で、正答率が全国を上回る問題がありました。B 問題では、身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述することについて課題があります。

中学校 学力調査の結果より

国語は、A 問題では、漢字の読み書きで全国を上回る問題がありました。しかし「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」には課題があります。B 問題では、複数ある条件をすべて満たして正答を書くことや、表現の仕方についてとらえ、自分の考えを書くことに課題があります。

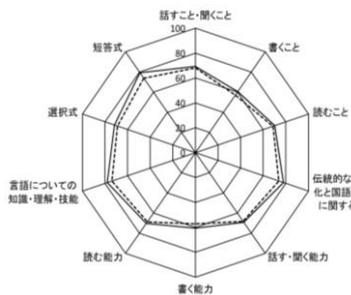
数学は、A 問題では、昨年度課題であった「関数」で全国や大阪府との差が縮小しました。また、計算もできています。しかし、文字式で表すこと、方程式をつくることについては課題があります。B 問題では数学的に説明したり、証明したりする問題で課題があります。

<平均正答率>

国語 A 大東市：71%

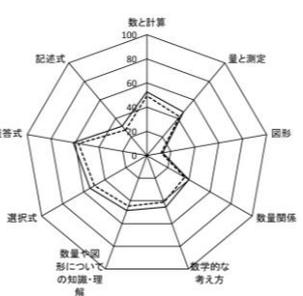
●●●● 大東市
—— 全国

国語 B 大東市：53%



算数 A 大東市：76%

算数 B 大東市：42%

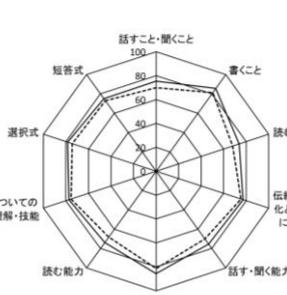


<平均正答率>

国語 A 大東市：74%

●●●● 大東市
—— 全国

国語 B 大東市：66%



数学 A 大東市：60%

数学 B 大東市：43%

